

## 令和4年度 第3回米沢市SDGs推進協議会 会議録

1 日 時 令和5年3月16日(木) 午後2時～午後3時30分

2 場 所 庁議室

3 出席委員

委員 副市長(会長)、伊藤優子副会長、  
安孫子幸一委員、安部里美委員、有海利至委員、伊藤浩志委員、  
数間美幸委員、川野敬太郎委員、菅野紀生委員、斎藤美綺委員、  
佐々木恵委員、四柳徹也委員

以上12名

(大和田浩子委員、香坂洋平委員、菅井栄委員、曾根伸之委員、  
田畑広志委員、中川浩一委員、中澤未美子委員、は欠席)

アドバイザー 谷中修吾先生

事務局 企画調整部長、政策企画課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議の公開又は非公開 公開

5 会議録

(1) 開会

(2) 会長あいさつ(要旨)

会 長 委員の皆様、谷中先生、本日もよろしく申し上げます。

(3) 新委員紹介(自己紹介)

(4) 谷中先生あいさつ(要旨)

アドバイザー 世界的に見ても、日本はSDGsの分野において、国と自治体とが手を組んでしっかり取り組んでいる。地方自治体の現場、つまり、米沢市の現場には、一番リアルなSDGsの実践事例がある。県や国にとって現場の実例は遠い存在になっているため、現場最前線の市区町村からSDGsの実践事例を発信する意義は大きく、本日の協議会のお話は資源の宝庫だと思う。米沢市から日本や世界へ発信していけるように応援させていただきたい。

(5) 議事(要旨)

(設置要綱第7条により、会長が議長となり進行)

会 長 それでは議事に入る。議事の円滑な運営にご協力をお願いしたい。

事 務 局 ((1)「令和4年度SDGs推進事業実施報告について」資料1、別紙1、2に基づいて説明。

(2)「令和5年度SDGs推進事業実施予定について」資料2、別紙3に基づい

て説明。)

アドバイザー

2点ほど情報提供したい。

1つ目はウェブサイトについて。行政のホームページは、ユニバーサルデザインの関係上、ビジュアル表現にこだわるのは難しい。しかし、SEOはとても強く、企業や団体がリンクされることは意味があることだと思う。

所定のサーバーでは表現できないビジュアルデザインについて、環境省では別のサーバーを用意して実現している事例がある。2箇所の置き場所を持ち、自由度が高い方でビジュアルデザインをすることができる。こういったことを取り入れると様々なビジュアル表現ができるようになる。

(掲載事例をPC画面で共有)

掲載事例のアワード受賞団体のように、「わたしのなせばなる」の応募団体を取材し写真とともに紹介すると、団体も嬉しいし、NCVの動画へのリンクがあると資産となる。これらを米沢市が先陣を切って行うことで、「わたしのなせばなる」のページに掲示したくなるという状態を作ることができれば、全国的にも非常に面白いのではないか。

2つ目は、環境省が行っているグッドライフアワードについて。団体側が誇りを持って発信しやすくなるように素材を提供するというのを大事にしていて、国では表彰シーンの動画を提供している。

(表彰されインタビューを受けている様子の動画)

こうした表彰を受けて、事務次官からコメントをいただき、インタビューを受けて発言することで自分たちの活動に誇りを持てる。この場合は国オフィシャルだが、米沢市で先ほどのNCVの動画を活用できたら良いのでは。

静岡県においても、グッドライフアワードの県版をやりたいという話を受け、地域のSDGsの発掘活動を県全域で取り組んでいる。仕組みとしては、県内全域を対象とし、SDGsを具現化するビジネスを発掘表彰するというもの。単なる表彰制度ではなく、受賞候補団体を洗い出し、3ヶ月間パワーアップ期間を設け、専門家とディスカッションをする。こうして『自分の会社でやっていること×環境課題の解決』を環境ビジネス、SDGsビジネスとして明確化し、実績と今後の取組を発表し、その場で賞を決め表彰する。

「わたしのなせばなる」に掲載されている団体の取組について、初見でも一発で分かるように現場をパッケージングして見える化することが大事。NCVさんの動画がまさにそうである。動画であれば、できれば1分でまとめる。ただし、SDGsを伝えるのは難しいため、2分程度でできるとよい。

(事例動画を共有)

見える化すると、伝わりやすくなる。分かりやすく翻訳することが重要。記事と動画をセットにすると面白いのではないか。

紹介した静岡県の表彰制度は、内閣府のSDGs金融表彰で表彰された。様々なところに露出することで県内での認知が広がり、今年の環境省のグッドライフアワードへの応募も増え、47受賞のうち9件(全体の約2割)を静岡県勢で占めてしまった。米沢からも国に対してたくさんのSDGs事例を出して、

全国的なスター誕生ということもできるのではないか。

地域の現場最前線では市町村が一番現場に近く、そこから SDGs 発掘による発信が強く求められているが、まだできていないのが現状。この構想をやり切っていくと米沢から SDGs のスター誕生ができるのではないかと思う。令和4年度の報告にあった PR TIMES での発信事例然り、本当に良くできていたので、来年度一気に期待できるのではと思う。

事務局 (谷中先生の情報提供を受け)

情報発信の重要性を改めて感じた。来年度も先生から学ばせていただきながら、我々の発信力を上げていきたい。

米沢からのスター誕生については、事業報告にもあったようにリアクト米沢/はまだ牧場の取組をピックアップし外に発信をしてきている。これから、そこを中心としての広がりが出てくると思う。米沢から全国、世界に名前が出ていくよう、私たちも協力をしていきたい。

委員 気づいた点について3点ほど発言したい。

1点目として、具体的な取組が着実に積み上がってきていることを素晴らしいと思い、令和5年度の実施予定の事業についても共感する。SDGs がシビックプライドを醸成する大切な要素だということを、子ども達の取組から気付かせて貰えた。改めて、地道な現場で支えて導いてくださる先生方に感謝し、市民としても気付きを貰っている。

2点目は、SDGs が私達のまちに何ができるかという視点の必要性について。プロモーションに関しては谷中先生から様々な手立てを教えていただいているが、SDGs は地域の再編集や発信に関わるころだと思う。政策企画課だけの PR に留まらず、観光課、米沢ブランド戦略課と連携して動ける体制を作っていただきたい。現段階ではその要素が足りないと感じている。

観光面において、台湾では、日本以上にサステナブルツーリズムが関心事であり、観光のプロモーションをする時に、SDGs や米沢品質というのを PR せずにはられないような状況になっている。ホームページに上杉鷹山公と SDGs というコーナーを設けていただいたことをありがたく思っており、引き続き観光面での連携をお願いしたい。

3点目は、2点目に関連して、台湾では伝統工芸品が非常に人気である。単に可愛いからではなく、米沢の歴史や自然と共にあるという背景に惹かれている方が多い実情がある。こういった工芸品は、個人で支えられている方が多い一方で公共的な役目もあると思う。SDGs の発信を市としても盛り上げてもらえれば、米沢市自体の SDGs の PR の手段になるのではないかと感じた。

事務局 学校の皆様には、シビックプライドの醸成に SDGs という切り口からご指導いただき本当に感謝している。SDGs 推進協議会を立ち上げてから2年が経ち、庁内での連携も少しずつ進んできているので、今後も進めていきたい。台湾での伝統工芸品の人気といった新しい取組のヒントをいただいたので、SDGs という切り口でそういった方々も紹介できるよう取組を進めていきたい。

アドバイザー 今、インバウンドとして台湾から結構来ているのか。

委員 国外だと台湾からが多い。

アドバイザー そういった観光客が何に一番関心を持っているかを踏まえ、ニーズに対する価値とともに米沢 SDGs のストーリーや背景を伝えることが重要。先ほどのウェブの話とリンクするが、デジタル上に情報がなければ存在していないことと同じ。発信の面で、全て多言語対応すべきというものではないが、わかりやすい入口やメディアに拾ってもらう部分については、多言語で翻訳すると効果が高く発信できると思う。台湾の方をはじめ、すでに米沢には海外の方がいらっしゃるのであれば、そこをコアターゲットにして広げていくというのは、SDGs と絡めてすごく追い風で魅力的だと思う。

委員 令和4年度の実践では、谷中先生の研修にも参加させていただき、充実した1年間だった。令和5年度は高校生チャレンジをさらにブラッシュアップして何か繋がる要素があった方が良いでしょう。検討いただきたい。

また、実際に高校の先生と話をすることで、地域に根差した課題を、高校生が社会人経営者層や青年経済人の集まりと一緒にディスカッションする機会があると良いという話になった。米沢市においても、学校だけではなく、推進協議会の皆さんや幅広い経営者層の方々と高校生とのコミュニケーションがあっても良いのではと思う。

先ほどの話にもあった伝統工芸に関して、伝統工芸を盛り上げる「ミナミハラアートウォーク」事業を行っている。アートの観点だけではなく SDGs と紐付けながら、アートと伝統工芸品と SDGs というところも一体化できるような気がするので、引き続き協議させていただきたい。

企業側としては、カーボンニュートラルに関して、今は SDGs よりも比重を置いて取り組まなければならないと肌で感じている。SDGs とは切っても切れない関係にあると思う。市内の経営者や企業と一緒に、カーボンニュートラルをテーマとしての SDGs カンファレンスがあればさらに有意義な活動に繋がると思うので検討いただきたい。

事務局 高校生チャレンジについてはすごく好評をいただいている。学校との関わりを通して高校生が様々な取組をしていることを感じた。一方、色々な高校から、米沢市と一緒に取組ができないかといったお声がけももらっている。来年度はそういったところを我々が繋ぐという役割をしながら、政策企画課だけではなく他課とも連携して、一緒に探求学習を取り組んでいきたい。そういった中で、委員からあったように、企業の皆様と一緒にやっていたら面白いことができるのではないかと感じた。

伝統工芸品についても、「ミナミハラアートウォーク」でされていることについて、何か一緒にできることがあれば協議させていただきたい。

カーボンニュートラルについては、環境生活課が様々な講義等やっているが、政策企画課が今年度始めている経営推進支援業務において、カーボンニュートラルがサプライチェーンの中でも大きな要素を占めると聞いており、研究していきたい。

委員 経営推進支援業務の内容は他でもあり、それを米沢市独自にやるとすれば

プラスαが絶対的に必要だと思うので検討いただきたい。評価した後に、米沢市が主体となり企業と一緒に賞を目指す等、強化月間のようなものまで紐づけて考えられているのか、本日の資料からでは見えてこない部分であったので、具体的なビジョンを示していただきたい。

事務局 他の地域でもやっているような取組だけではなく、米沢らしさを取り入れていきたいと考えている。地域のブランド力や情報を発信していくことが大事だと思っている。米沢にはSDGsの取組を頑張っている企業が多数あることを承知しており、そういった企業の手助けをしたい。今後はサステナブルな経営が企業としても必要になってくると聞いている。そういった部分を手助けし、一緒に進んでいけるような仕組みを取り入れたい。市のホームページからも積極的に企業とリンクし、企業のSDGsに資する取組を発信していけるような仕組みづくりをしていきたい。

委員 着実に進められている印象を持った。SDGsの他にもブランド化、脱炭素も米沢市で取り組んでいると思うが、それぞれのプロジェクトをどう有機的に繋げていくかが大事になってくると思う。組み合わせることで相乗効果や掛け算としての効果が出てくる可能性がある。米沢の恵まれた資源を生かし、人口減少対策や産業振興策とSDGsを両立させていくこと、ブランド力を向上させていくこと、それらを脱炭素など地球に負担の少ない形でやっていく、というところを有機的に繋げていけたらと思う。ぜひ今取り組んでいる様々なプロジェクトの横の連携も検討いただきたい。

事務局 協議会を立ち上げた当時からSDGsの事業を検討してきた過程で、米沢ブランドとの連携については以前から課題があり、内部でも様々検討している。まだまだ各課が単独で行っているように見える部分があるかと思うので、有機的な繋がりを検討し上手く結びつけながら相乗効果を生み出せるように引き続き取り組んでいきたい。

委員 「わたしのなせばなる」の登録数の目標としては令和5年度中に100件ということだが、達成状況についてお聞きしたい。

事務局 (3月8日時点で)34件であり、100件には及んでいない。目標を目指して、周知等、載せたくなるような仕組みづくりを進めていきたい。

委員 これからどうテコ入れしていくかが大事かと思う。目標を立てた限りは、達成できるようにいろんな手立てを講じて欲しい。

経営推進支援業務の展開について、米沢市は中小企業がほとんどの中で、SDGsに特化して関われる人を割けるかという部分は非常に厳しい事情があるかと思う。そういった意味で、バックアップ体制や、知らず知らずのうち取り取り組んでいる事業者を拾い出して光を当てるような取組に繋げて欲しいし、ブラッシュアップしていくような併走支援も取り組んでいただきたい。

事務局 以前いただいた意見にも、米沢市は中小企業が多くどこまでSDGsに取り組めるか、とあった。また、自分たちの取組の何がSDGsかわからないといった意見もいただいているが、どんな企業もSDGsに繋がる取組をしていると思っている。企業規模の大小でも差があるかと思うが、そういったところが対外的

に見えるような仕組みづくりを進めていきたい。

会 長 100件に近づくような秘策はないのか。  
事務局 秘策はないが、地道に活動していくとともに、先生からもあった「載せたくない」を一つキーポイントとして、努力していきたい。

委 員 大学でも2年前からSDGsに全体で取り組んでいる。学生に授業概要や評価基準を示すシラバスにおいて、全てSDGsのどのゴールに関連するかを記載しなくてはならない。つまり授業の全てがSDGsのどこかに関連すると意識づけられている。先ほどから議論があるように、企業における普段の取組がSDGsの何かに関連するという意識づけをしてもらえれば、多分100件はすぐに出てくると思う。小さなことでもSDGsに関連するということを意識づけするためにこの推進協議会があり、いろんな取組がされている。ぜひ継続的に頑張っていたきたい。

副会長 「わたしのなせばなる」への応募数拡大の取組として、申し込んだ方が、国連の「1.5度の約束」キャンペーンにおけるNCVのCMに出てPRできるという特典について提案したい。昨年のキャンペーンでも独自CMを沢山作ったが、その際はNCVの社員が出演。今年3月20日に国連からプレスリリースが出て2年目のキャンペーンが始まることになるが、今回のCMには、地域の皆様や谷中先生、委員の方や「わたしのなせばなる」に掲載された方に出演いただき、15秒CMの中でPRしていただきたい。

先日の「SDGs未来にワンステップ」でも米沢地方森林組合の四柳委員に出演いただいた。もしお役立てることがあれば言っていたきたい。

事務局 素敵なお提案に感謝申し上げます。今後も一緒にさせていきたい。

委 員 今年度は高校生に目を向けて活動されたところを見て、高校生のやる気に感動した。令和5年度は企業に目を向けていると感じている。計画されているSDGs経営推進支援について、企業側としては様々な外部監査でも同様のことを聞かれ、これがSDGsに繋がっていることが分かっているためありがたいのだが、これを受ける企業側がどう反応してくるのか心配なので、やる気を引き出すよう進めていただきたい。

「わたしのなせばなる」にも掲載されている「パトラン山形」は、冬の休止期間を経て、3月から活動を再開した。コロナ前と比べてゴミの量は減っているが、まだまだ多い地区もある。その地区の衛生組合からはゴミ袋を提供いただき活動に賛同いただいている。このような活動から、地区住民やそこで勤務している方の生活が見えてくるので、高校生や中学生にも一緒に活動してもらい、街の様子を感じとってもらえたらと思う。

## (6) その他(要旨)

アドバイザー SDGsの紐づけは学校でも企業でも積極的に進められるようになっていると感じているが、17の目標はあくまで目標群であって、中身の個別ターゲットを見ると開発途上国の問題を想定した目標だったりする。せっかく意識がSDGsに向いてきた中なので、今後は169の個別ターゲットと照合して取り組んで

いるものを言えた方が、より明確なイメージを持てると思う。成果指標をセットで見て、自分がどこまで貢献できているのかを理解できるため、もう1歩進めてみても良いのではと思う。

「わたしのなせばなる」の目標件数の達成について、秘策は気合い。お勧めは、行政職員が飲み会等の交流の場に足を運ぶこと。実際の団体目線だと、たった一枚の書類であっても書くのが面倒くさくハードルが高いもの。交流の場で話を聞きながら筆記代行してしまう等、人間的な泥臭い取組が大事という実情もある。

経営推進支援業務について、委員の指摘の通り、企業活動には監査が非常に多いことから、SDGs 診断が企業にとってのうまみと紐づいてなければ実践するインセンティブが無い。場合によっては、ただ仕事が増えるという感覚になってしまう。しっかりとうまみを伝えることが大事。

横連携については、市の中でも様々な部署があり、SDGs を目指して頑張っている。組織の特定上、部署同士で融和しにくいケースがあるのも事実であるため、どこが生き残るか競い合うぐらいが面白い。一方、部署間で融和を図っていくためには、職員の個人レベルの繋がりが重要になるケースが多い。ここでも懇親会等の交流は大事。

競争と融和のどちらもあり得るが、お互い歩み寄るには、個人と個人の関係性が重要だと思う。人間関係そのものが部署関係にも反映されるところも含めて楽しむぐらいでちょうどいいと思う。

ここ1～2年でプラットフォームづくりが着実に進んでいるのは素晴らしい。全国的には表面的な会議で終わってしまうことも多い中、米沢では一つ一つのプロセスが大切にされていると感じている。新年度も皆さんと交流できることを楽しみにしている。

## (8) 閉会

以上